

## 事業報告書（令和 7 年度）

事業名 ESD・SDGs による地域教育力向上事業

団体名 岡山市京山地区 ESD・SDGs 推進協議会 担当者名 近藤 ゆみ

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

#### 【秋の環境てんけん 2025】

#### 第 1 部「身近な環境をてんけんしよう！」

- 日時 2025 年 10 月 25 日（土）9:30～12:30
- 場所 観音寺用水、岡山県総合グラウンド、京山公民館美術工芸室
- 参加対象者 中学生から大人まで
- 参加人数 47 人（高校生・大学生ボランティア含む）
- 講師 岡山@生き物係、岡山淡水魚研究会、岡山理科大学、岡山理科大学附属高校
- 内容 参加者と担当ボランティアで、総合グラウンドの植物と大気、騒音の調査を行い、植物について解説を聞いた。その後、観音寺用水に移動し、「緑と水の道」と座主川で水辺の生き物と水質の調査を実施し、採取した生き物について、講師から解説いただき、水辺の生き物の生態について学んだ。また、講師からホタルの生態についてのお話も聞いた。用水路内及び周辺部のごみの調査と回収、用水路内の保全も行った。その後公民館に戻り、活動の感想を用紙に記入し調査結果を共有した。

【活動の様子 ↓】



## 第 2 部「京山地区のプラスチックごみを調べ回収しよう！」

- 日時 2025 年 10 月 25 日 (土) 14:00~16:00
- 場所 京山公民館 第 2 講座室
- 参加者対象者 中学生以上
- 参加人数 15 人 (中学生・高校生ボランティア含む)
- 講師 みずしま財団



- 内容 参加者全員で、学区内の用水路に浮遊するゴミを回収して公民館へ持ち帰り、ごみを分別しながら、種類や量、含まれるプラスチック量などを調べて記録した。また、講師から日本のごみ問題の現状についての話聞き、プラスチックが環境に与える影響などについて学んだ。ごみを減らしていくために自分たちに何ができるかなどを考えた。

※【春の環境てんけん 2025】 5 月 31 日 (土) に実施 107 人参加

### 【京山公民館避難所体験・地域防災講座】

- 日時 2026 年 1 月 24 日 (土)・25 日 (日)、~3 月 8 日 (日) 月間行事
- 場所 京山公民館
- 参加対象者 子どもから大人まで (外国の方にも積極的に呼びかけを行った)
- 参加人数 117 人 (高校生・大学生ボランティア含む)
- 内容 地元町内会と連携し、高校生や大学生にもブース運営などをしてもらいながら、地域の特徴等を踏まえた防災訓練・防災学習を行った。※外国人対応ブースも設けた。地域住民による防災講話、京山公民館避難所開設体験・防災トイレ組立体験・防災工作・防災クイズ・非常食試食・防災グッズ展示・避難所準備物展示等。

### 【SDGs・防災ウォークラリー】

- 日時 2025 年 12 月 6 日 (土) 9:30~12:30
- 場所 京山公民館発着・京山地域
- 参加対象者 子どもから大人まで
- 参加人数 55 人 (高校生ボランティア含む)
- 内容 大学生企画・運営講座。地域の多様な人々が一緒に、地域の身近な自然や歴史、地域の危険箇所や防災施設、持続可能な社会経済活動について、SDGs の視点で作成したクイズを解きながらめぐった。

### 【第 21 回 京山地区 ESD・SDGs フェスティバル】

- 日時 2026 年 1 月 24 日 (土)・25 日 (日)、~3 月 8 日 (日) 月間行事
- 場所 京山公民館
- 参加対象者 子どもから大人まで
- 参加人数 約 1,241 人=1 月 24 日・25 日、2 月 14 日、2 月 28 日 (学生ボランティア含む)
- テーマ「京山から育もう！SDGs からその先へつながる未来」

★活動発表★

伊島認定こども園 (VTR)、伊島小学校 (VTR)、津島小学校 (VTR)、京山中学校 (VTR+生徒)、岡山工業高校 (VTR+生徒)、烏城高校 (生徒)、明誠学院高校 (生徒)・岡山大学 SCOG プロジェクト

・各学校園の発表に対し会場からコメントをいただいた。

コメンテーター：教育長、市議会議員、連合町内会長、岡山大学学長、京山地区 ESD・SDGs 推進協議会委員等

★京山 ESD・SDGs 対話★

・テーマ 「愛着と誇りを育む命輝くまちへ」

【テーマパフォーマンスと生徒等からのメッセージ】(劇団公民館☆京山の仲間たち)

【ゲストトーク】岡山市長・岡山市教育長・岡山大学長ほか

【グループ対話】未来へのメッセージをテーマに対話

★PTA と地域の未来を考えるフォーラムシアター★ (京山 PLAY 未来プロジェクト・劇団公民館☆京山)

・演劇を通じて、演じ手と参加者が一緒に考え、交流する=参加型シアター

【アンチモデル上演】劇団公民館☆京山、明誠学院生徒、俳優

【ディスカッション⇄再演】会場参加型

ディスカッションと再演を繰り返し、問題解決に向けて考えていく。

★地域活動大自慢大会★ (地域の絆プロジェクト)

・地域活動をしている人の自慢話を聞いて、これからの自分の活動のエネルギーにする。

【発表団体】明誠学院高校、伊島盛り上げ隊、チューリップの会、フレンドリー京山、津島生活学校、岡山ユネスコ協会、京山中学校、ノートルダム清心女子大学、岡山大学、伊島学区、津島学区、地域の絆プロジェクト

★その他★

・世界に一つだけの葉脈しおりづくり (藤クリーン株式会社)

・新聞紙で鉛筆削り&まゆ玉作り~自分だけのペットを作ろう (ばるボランティア)

・みんなのカフェ (チューリップの会)

・ガムラン演奏と楽器のワークショップ (京山公民館)

・もの作り教室 (岡山工業高校)

・伝統文化と昔遊び (愛育委員会)

・食器のリユース

・地域の絆ワークショップ (テーマ：交通安全)

・つしまみんな食堂

・物品販売 (ネパール雑貨…ダフェプロジェクト、番田イモのどら焼き等…岡山商科大学、カゴ 椰子でんぷんを使ったスープ…(株) テンダーハーツ、手作りインド雑貨…在住外国人)

・若者の提言大募集

★月間行事★

・活動発表展示（掲示）

・「京山カムカムトーク」～SDGs 交流会～ 2月14日（土）

「食」をテーマに、学校や企業、市民団体等様々な分野の SDGs 活動について学び、参加者間で交流・意見交換を行った。

◎司 会：岩淵泰さん（岡山大学学術研究院教育研究マネジメント領域准教授）

◎ゲスト：柴川弘子さん（岡山大学学術教育研究院 ESD 協働推進センター助教）

長野理絵さん（株式会社 中国銀行津島支店長）

◎話題提供団体：大同印大同青果株式会社 代表取締役社長 大野博己さん

岡山大学 TFT+ 加東ゆいさん

つしまみんな食堂・NPO 法人ジャパンハーベスト理事 前田泰史さん

・京山会議×清心 2月17日（火）「スマホでつながる元気の輪～お茶でつながる心の広がり～」※会場：ノートルダム清心女子大学

・京山ホテルプロジェクト～まちなかホテルを育てよう！～

① 2月28日（土）ホテル講座

◎ゲスト：友延栄一さん（岡山の自然を守る会）、中村圭司さん（岡山理科大学）、

仲達忠男さん（伊島学区連合町内会）

モデレーター：岡 成美さん（人と科学の未来館「サイピア」）

② 3月7日（土）幼虫放流会

・SDGs 映画上映会「一緒に映画を観て語らおう～みんなでつながって持続可能な地域を～」

【映画】「もう一つの明日へ」上映

長野県上田市の地域通貨団体の考えと実践を記録したドキュメンタリー、地域の人たちと千葉大学の学生たちが協働して制作。観劇後、豊かな暮らしのヒントについて、意見交換を行う。

<フェスティバル：活動発表会>



<フェスティバル：ESD・SDGs 対話>



<フェスティバル：フォーラムシアター>



<フェスティバル：地域活動大自慢大会>



<フェスティバル：販売>



<フェスティバル：ガムラン演奏>



<フェスティバル：SDGs 交流会>



<フェスティバル：伝統文化と昔遊び>



<SDGs・防災ウォークラリー>



<フェスティバル：ホテルプロジェクト>



<b>2. ESD の視点</b>
<b>① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか</b>
環境点検や ESD・SDGs フェスティバルを通して、京山地域の新たな魅力に気づき「もっと知りたい」「この地域が好き」と感じたり、自分の活動を言葉にして語り、客観的に見つめ直すことで、「この地域で活動を頑張りたい、みんなとつながりたい」という愛着や誇りが高まっていく様子が参加者の発言からも伺えた。事業アンケートからは、京山地域のことに関心を持ったり、自分事として考えたりできる人が増えてきていることがわかる。
<b>② どのように学び合いを取り入れたか</b>
フェスティバルの場を生かして、「京山 ESD・SDGs 対話」「地域活動大自慢大会」、「PTA と地域の未来を考えるフォーラムシアター」「京山カムカムトーク～SDGs 交流会～」など、対話・参加・交流型の学び合いの場をつくることで、多様な学び合いができるようにした。
<b>③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか</b>
学びの場を、講師等から参加者への一方通行の「説明・受け身型」ではなく、「発問・対話型」が主となるようにし、参加者が「お客様」ではなく、「自分も主役・自分も社会を構成する一員」と意識できるようにすることで、課題や関りを自分事として捉え、学びから探究、主体的な実践行動へと変容していけるように工夫した。例えば、「PTA と地域の未来を考えるフォーラムシアター」では、今注目されている「PTA」について取り上げ、演者・観劇者が話し合いを重ねる中で、多様な意見が引き出され、新たな問題提起がなされる中で、様々な視点から学び合える形となった。
<b>3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）</b>
様々な活動において、若い世代とつながりが薄くなり「後継者問題」が深刻になっているという声も少なくない。しかし、京山地区は、高校と大学がそれぞれ 3 校あり、ESD・SDGs に積極的に取り組みを進めていることもあり、生徒のボランティア意識が高く、募集定員を遥かに上回る申し込みがあったり、日常的に継続的なボランティア活動に参加する子もいる。年間を通じて様々な活動で、多くの新しい若者を育成できている。京山地区は、ESD・SDGs 推進という共通の目的の元に、高校や大学との連携の仕組みができています。昨年は、「お手伝い」としてのボランティア参加だった学生が、今度は、希望して「企画者」となり、自分が考え描くものを実現した。自ら考え、行動（実現）して行くという変容が見られた。また、地域のお互いの活動を知る中で、点と点との活動が線につながり、「仲間感」を感じられ、今の活動を継続する原動力となったということも参加者の言葉から伺えた。
<b>4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）</b>
本事業では、高校生と大学生の関わりが多い京山地区の強みが活かされており、ここでの成果は岡山地域に広く波及効果も出している。国内外の様々な団体・個人が、これらの活動を学ぼうと、拠点となる公民館に来館される。今後も、岡山地域の牽引役として地域をあげて ESD・SDGs に取り組み、持続可能な社会づくりを推進していく。2030 年の SDGs 目標達成年の一歩先、2030 年以降を視野に入れ、様々なチャレンジをし、岡山地域のモデルとなるような地区を目指す。

(様式第8号)